

混乱のデータから 確信のAIへ

データは信頼できるAIの基盤

AIパルス調査 - 第2弾

protiviti®
Global Business Consulting

目次

03 エグゼクティブ・サマリー

07 データの信頼性：成熟度の指標

14 データバイアスと予期せぬ結果

16 データの課題：最適化へのハードル

20 「完璧なデータの罠」を避ける：AI成功のための5つの重要な注意点事項

21 信頼できるデータは能力：行動への呼びかけ

22 付録：調査概要

23 プロティビティについて



エグゼクティブ・サマリー

急速に変化するAI時代においても、変わらない真実がひとつあります。それは、データは燃料であると同時に抵抗でもあるということです。AI パルス調査シリーズの最新版では、AIの取り組みを支えるデータの品質と準備状況を調査し、前向きな進展と依然残る課題の両方を明らかにしました。例えば、調査ではデータに対する信頼性の価値が示されました。その内容は次のとおりです。

- データの品質に「非常に自信がある」または「自信がある」と回答した人は、AI投資が投資収益率（ROI）の期待値を大幅に上回ったと報告する傾向が強いです。
- 一方で、「自信がない」または「多少自信がある」と回答した人は、AI投資のROIが期待を下回ったと報告する傾向が高くなっています。

このことは、データへの自信の基盤を強化する必要があることを示しています。バイアスや誤解釈といった問題はAIへの信頼を損なう可能性があり、強力なデータガバナンスが不可欠です。¹

データ統合、AIモデルのためのデータ準備、データを責任を持って扱うための教育などを含むデータガバナンスは、AI成熟度を高めROIを最大化するための重要な手段です。

組織がAI成熟度の段階（次ページ参照）を進めるにつれて、直面するデータ課題の性質は変化します。ただし、一部の課題は依然として残ります。より成熟した段階では、データの信頼性・完全性・アクセス性に関連する問題が続きます。これらは、不明確な定義、不一致の分類体系、断片的な集約に起因することが多いのです。AI成熟度が高い回答者はこれらを最重要課題とまでは見なしていませんが、初回のAIパルス調査で特定されたデータのサイロ化や統合の難しさは、依然としてすべての段階に影響を与えています。²

“

期待を超える成果をAIが偶然上げることはありません。それは信頼できるデータの基盤があるからです。

Peter Mottram

エンタープライズ・データ&アナリティクス

グローバルリーダー

AI リーダー

プロティビティ

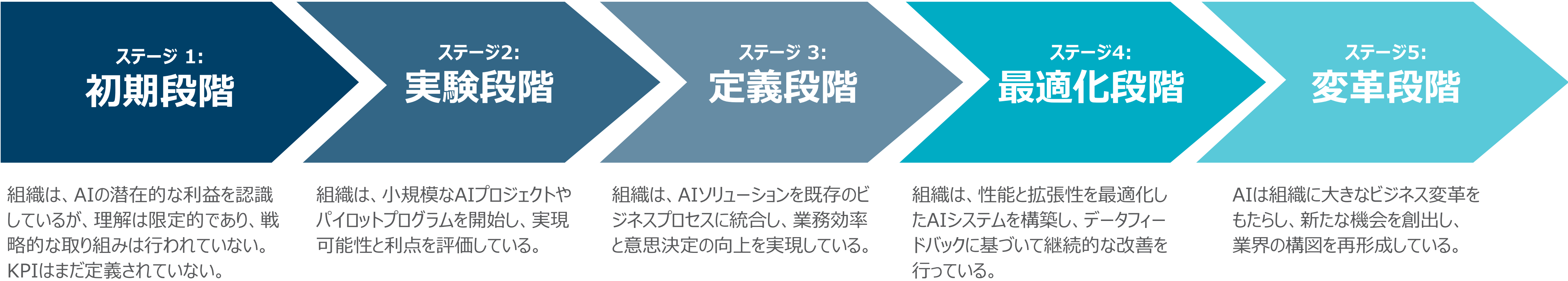
¹ データガバナンスとは、データが正確で、一貫性があり、安全で、責任を持って使用されることを保証するポリシー、プロセス、役割の枠組みであり、これにより、組織全体で高いデータ品質とコンプライアンスをサポートします。

² 探索から変革へ：AIの成功とはどのようなものか、AIパルス調査 第1弾、2025、プロティビティ: <https://www.protiviti.com/jp-jp/survey/ai-pulse>



回答者によると、特にAI成熟度の高い組織では、研修、監査、透明性向上のためのソリューションを通じてデータ課題に積極的に対処しています。具体的には、データ標準の実装、データライネージツール、高品質のダッシュボード、メタデータ管理サービスなどです。これらの取り組みは、堅牢なデータガバナンスを構築し、低品質データに伴うリスクを軽減するための基盤となります。放置された低品質データは、不正確なラベリング、古い情報、不均衡な結果、入力の曖昧な解釈など、さまざまな形でバイアスを生じさせたり増幅させたりする可能性があります。

図1: 成熟段階別のAI導入 — AI導入段階における企業の位置づけ



すべてのデータが同じように信頼されるわけではない：役割によって信頼度が異なる理由

役割ごとの視点からは、人々が、扱うデータをどの程度信頼しているかに顕著な違いが見られます。ITの専門職が最も高いレベルの信頼性を示しているのは、彼らが生データに近い立場にあり、その整備、クレンジング、検証を担っているためです。C-suite（経営幹部）のリーダーも強い信頼性を示しています。彼らが接しているのは、すでに複数の精緻化プロセスを経て意思決定に使える形に整えられたデータだからです。営業やカスタマーサービスなどのビジネス部門の回答者は、信頼レベルにばらつきがあったり、低いレベルの信頼を報告しています。彼らはしばしば、生データまたはあまり処理されていないデータに直面します。このようなチームは「データの最前線」に近く、不整合、欠落、品質の問題がより見えやすいのです。

このパターンは明確な相関を示しています。つまり、データがより整理され検証されているほど、その信頼性への自信は高くなります。一方で、生データや未処理データに密接に関与しているが検証には直接携わっていない役割では、データが完全に処理される前の不整合にさらされるため、懐疑的になる傾向があります。

成熟したAI組織は、AI導入とデータに対する自信の両面で並行して — そして時には同時に — 着実に前進しています。混乱したデータから信頼できるAIに至る道のりは直線的ではありません。しかし、堅牢なガバナンス、部門横断的な整合性、データリテラシーの文化といった基盤が整えば、組織はAIの潜在能力を最大限に引き出し、意味のある測定可能な成果を生み出すことができます。

“

データ品質への投資は、信頼が最も弱いフロントエンドシステムにまで届かなければなりません。これらの入り口を強化することが、永続的な信頼を基礎から構築する絶好の機会となる可能性があります。

Matt McGivern
エンタープライズ・データ、アナリティクス & AI
プロティビティ

注目すべき調査結果

01

AIの進展は、データの品質および管理のあり方と密接に関係しています。初期段階のAI導入は、目的に合わない、不完全または不十分なデータセットから始まることが多く、それらは時間をかけた反復的なプロセスを通じて改善されます。組織が成熟するにつれて、データの取り扱いはいより体系的で意図的なものになります。

AI成熟度のステージ5では：

- 74%の組織が定期的なデータ監査を実施しており、これはステージ1（36%）の2倍以上です。
- 57%の組織が堅牢なデータ管理方針と標準を導入済みであり、導入初期の24%と比べて大幅に増加しています。

04

信頼への障壁：セキュリティ上の制約と技術ギャップがデータに関する主要な課題です。セキュリティおよびコンプライアンス関連のデータ課題は、AI導入のあらゆる段階で持続的に存在し、ステージ5では59%の組織が最重要課題として挙げています。これに次いで、技術関連の課題があり、ステージ4の組織の51%が主要な障害として技術的制約を挙げています。

02

データへの自信とROI：データ品質やアクセス性に対する自信は単なる技術的指標以上の意味を持ち、AI導入におけるROIの強力な指標となります。AI投資に対するリターンが期待を大きく上回っている組織のうち、ほぼすべて（97%）が、AI目標をサポートするために必要なデータを入手、整理、理解する能力に自信を持っています。同様に、データの質を向上させる政府全体の取り組みも、信頼を高める上で重要な役割を果たしています。

05

データガバナンスは拡張可能なAIの基盤です。強固なデータガバナンスは単なるベストプラクティスではなく、責任あるAI拡張のための基盤要件です。しかし、AIの取り組みが進んでいる組織でさえ、57%が「不十分なデータガバナンス」を最も重要な課題と認識しています。

03

バイアスは存在する可能性が高い- それを認識することが真の課題です。AIバイアス（具体的には、データ、モデル設計、トレーニングの欠陥に起因する、意図しない、または不公平なAIの歪んだ出力）は、データ、設計、人間の意思決定に内在する不完全性に起因するため、おそらく存在します。初期段階と変革段階の組織の両方が、データの偏りを認識するレベルが低いと報告していますが、これは全く異なる理由によるものである可能性があります。

ステージ1の回答者の30%は、バイアスに遭遇したことはないと答えています。これは、実際にバイアスがないというよりも、バイアスを検出するための意識、ツール、専門知識の欠如を反映している可能性があります。ステージ5の組織も、同様の割合（28%）でバイアスがないと回答しています。彼らのバイアスの低さは、盲点というよりも、むしろ積極的な緩和の結果である可能性が高いです。



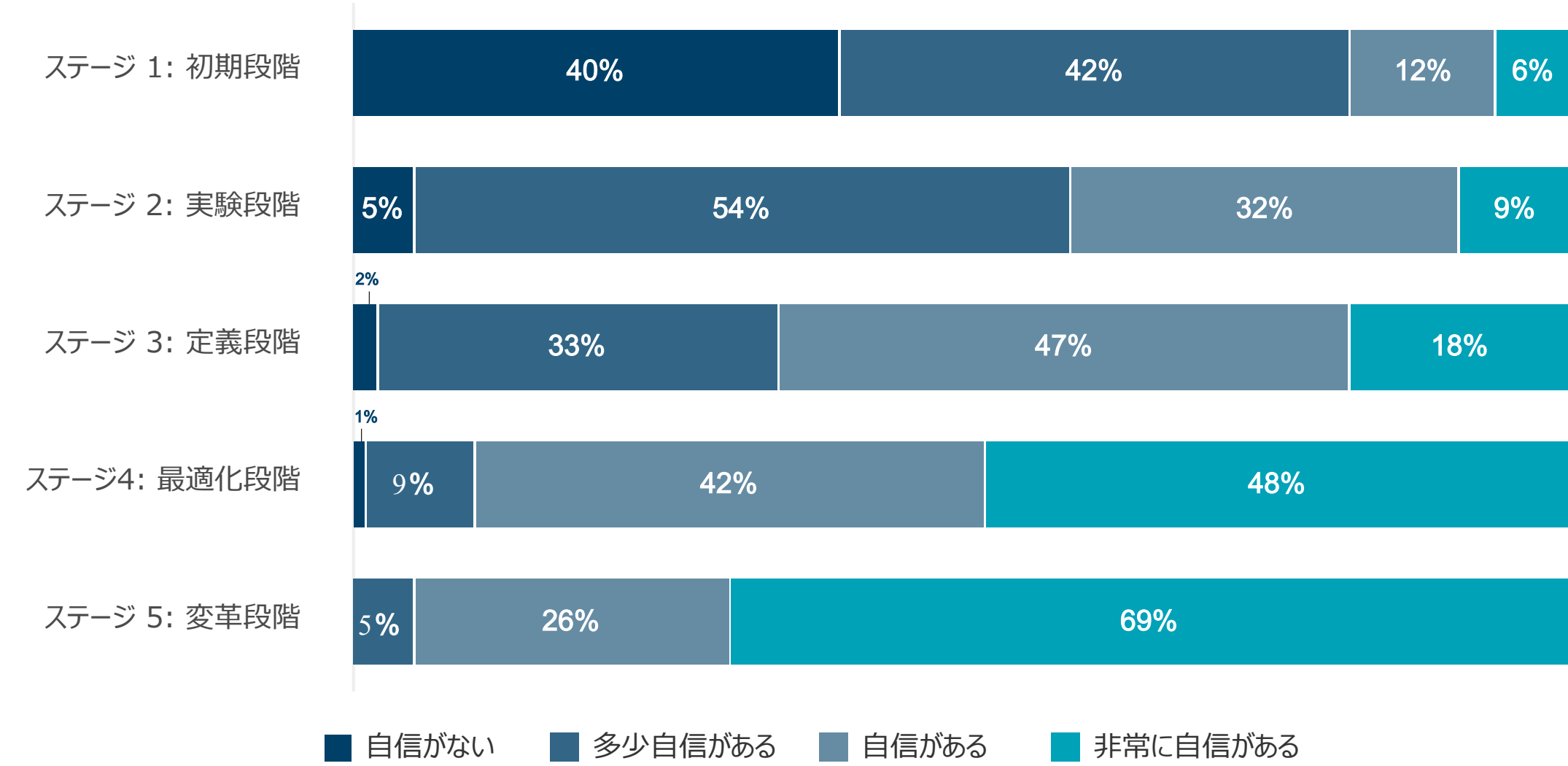
データへの信頼：成熟度の指標

チームまたは組織が、AIの目標をサポートするために必要なデータを管理（取得、整理、理解）する能力に関してどの程度自信がありますか。

データの信頼度とAI成熟度の相関関係

組織がデータに対して自信を持つようになると、AI成熟度曲線に沿ってさらに前進できるようになります。簡単に言えば、データ成熟度を達成せずにAI成熟度を構築することはできません。データを信頼し、アクセスし、効果的に管理する能力こそが、組織にAIを自信を持って拡張させる力を与えます。データ成熟度は単なる補助的要素ではなく、AI成功の基盤的な推進要因です。ステージ5の組織のほぼ70％は、AI目標を支えるために必要なデータを取得、整理、理解する能力に非常に自信があると回答していますが、初期段階や実験段階の組織では10％未満です。

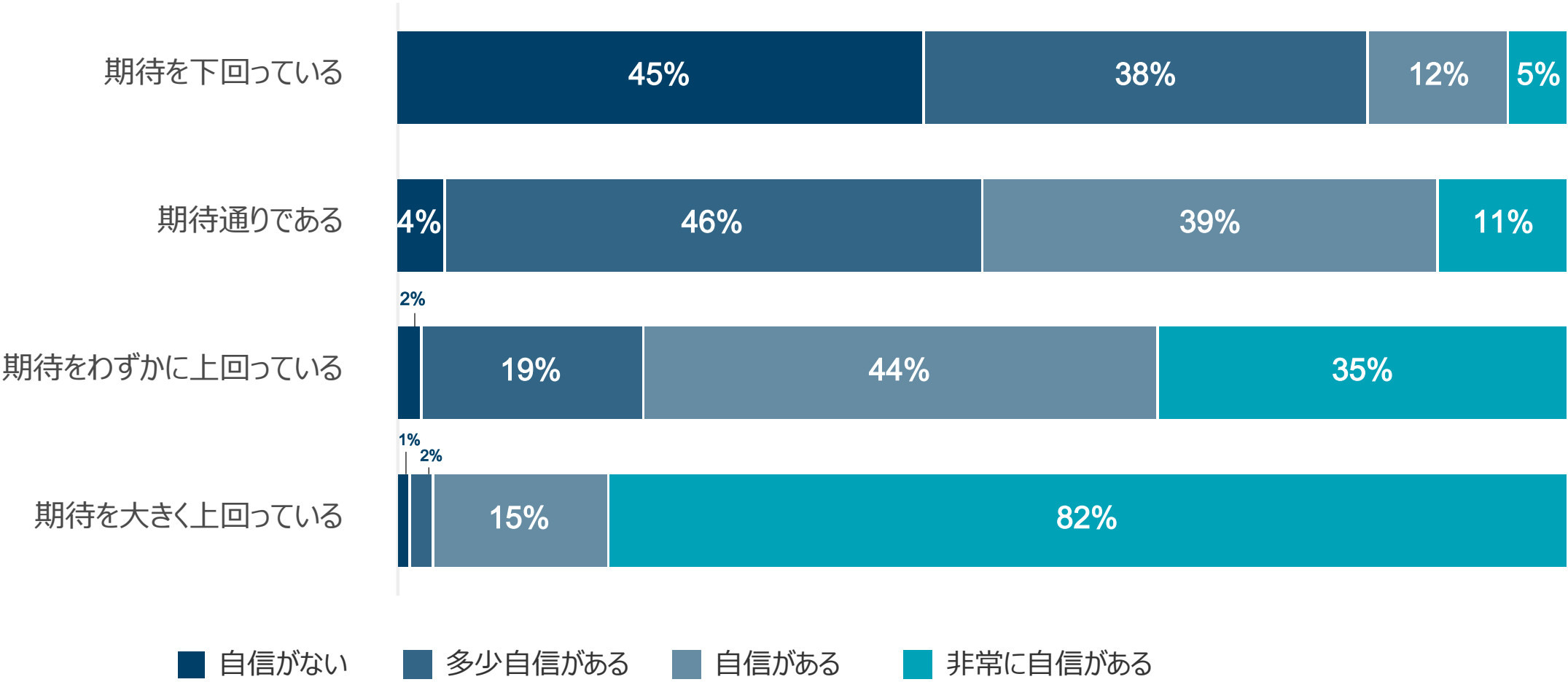
図 2:AI成熟度別のデータへの信頼度





データへの信頼はROI満足度の重要な原動力である

図 3: AI ROI満足度別のデータへの信頼度



データ能力に対する高い信頼を示す組織は、AI投資が期待を上回ったと回答する可能性が著しく高くなります。

より高い信頼性、より高いROI

データ能力に対する自信とROI満足度は並行して進む傾向があります。データ能力に強い自信を持つ組織は、AI投資が期待を上回ったと報告する可能性が非常に高くなります。逆に、自信の低い組織は「期待通り」または「期待を下回る」といった結果を報告する傾向が強くなります。

これは、データへの自信を形作る根本的要因に対応する重要性を裏付けています。データバイアスや誤解釈といった問題はAIの出力に対する信頼を損なう可能性があり、ここで強固なデータガバナンスが不可欠となります。データガバナンスは、データエンジニアリング、アナリティクス、そして人々にデータを責任を持って使うよう教育することと組み合わせることで、AI成熟度とROIを高めるための重要な手段となります。特に、分析がデータ品質、モデルの性能、利用状況の洞察に焦点を当てる場合、組織のデータ能力が成熟すればするほど、AIが生成した出力をより広いデータエコシステムに統合できるようになります。、それらを適切なコンテキストに配置し、意味のある実行可能な洞察に変換することで、その価値を最適化します。

組織がAI成熟度の段階を進むにつれて、データへの信頼の影響は一層顕著になり、ROIへの期待も高まります。例えば、ステージ2で組織がAIプロジェクトの試行を始めると、データの信頼度が向上し、データに自信のある組織や非常に自信のある組織の間では「期待をわずかに上回っている」という回答が目立ち、増えます。データに対する信頼が高まるにつれ、その活用意欲も加速します。

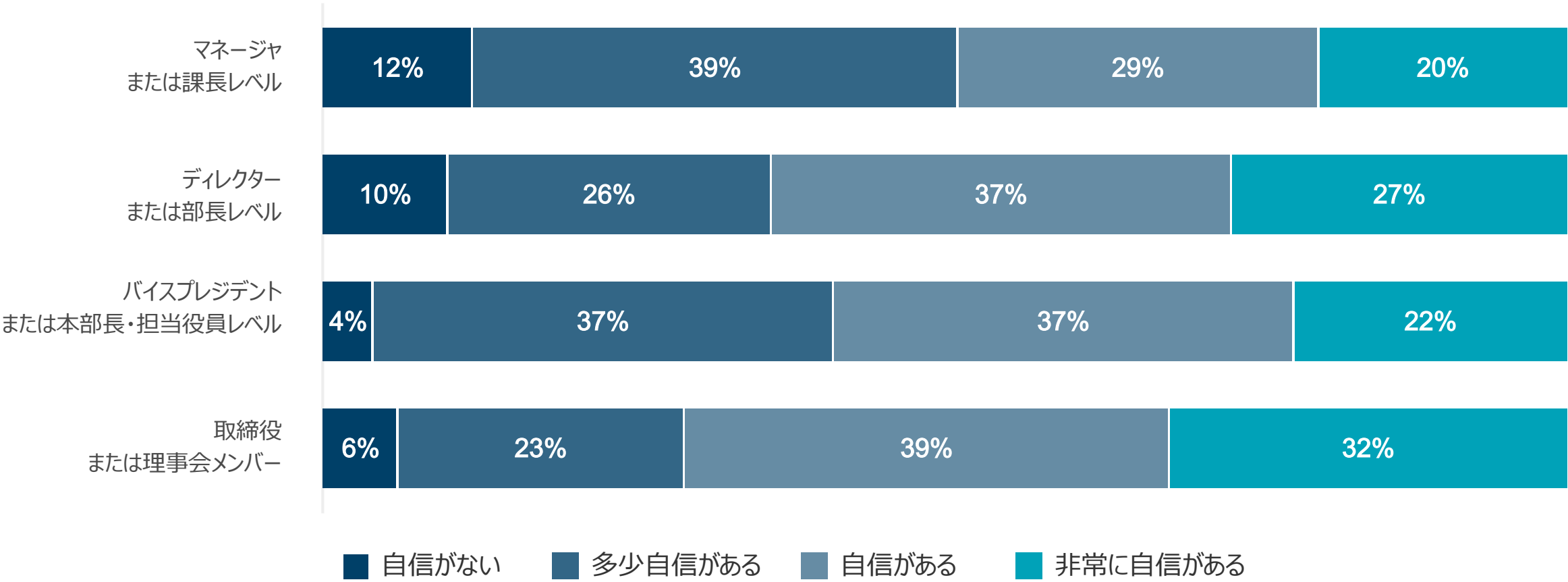
ステージ5では、組織はデータ能力に非常に自信を持ち、AI投資のリターンが「期待を大きく上回っている」と圧倒的多数が報告しています。これは、データが適切に管理されていれば、組織がAIから変革的な価値を引き出せることを示しています。同時に、組織がより影響力のある取り組みを推進するためにAIを信頼している直接の結果でもあります。



経営幹部の71%が、
自組織のAI施策を支える
データ能力に自信を持
っていると回答しています

データへの信頼は組織の役割や国によって異なる

図 4: 職務別のデータ信頼度





データ能力に対する自信は、関与の度合いや視点の違いを反映して、組織の役割によって異なります。

● マネージャーおよびディレクター

- 調査結果はまちまちであり、多くの回答者が中程度から高い信頼性を表明していますが、特に半加工データまたは検証度の低いデータを扱う可能性が高いグループの間では、データに関する不確実性も存在します。

● バイスプレジデント

- 回答者たちは、経営幹部ほど強くはないものの、概して高い信頼に傾いています。

● 経営幹部（CEO、CTO、CIOなど）

- 回答者は、データへの信頼が高いことを報告する傾向が見られます。
- これは、おそらくデータが経営幹部に使用される前に、複数の検証を経ているためと思われます。

地域ごとのデータ信頼度の違いは、政府のデータ重視姿勢、人材の供給状況、技術導入度といった地域要因が組織の見解をどのように形作るかを浮き彫りにしています。

● インド

- 回答者はデータに対する自信が最も高いと報告しています。
- 過去10年間、インドは単にデータシステムを拡大するのではなく、国全体としてデータ品質と精度を優先する方向へ転換してきました。この文化的・運用的なシフトが、組織にとってデータを単なる技術的資源ではなく戦略的資産として扱うことを後押ししています。³

● 香港

- 回答者におけるデータへの信頼はインドに次いで2番目に高くなっています。
- 香港はフィンテック戦略の要としてデータ品質を強調し、包括的なデータ品質フレームワークを導入しています。⁴

● 米国

- データへの信頼度は、回答者の中で最も低いものでした。
- 国家レベルでの標準は存在せず、連邦データ戦略（Federal Data Strategy）があるのみで、これは政府機関のみに適用されています。⁵

³ “India’s Data Imperative, The Pivot Towards Quality,” NITI Aayog, June 2025: <https://www.niti.gov.in/sites/default/files/2025-06/FTH-Quaterly-Insight-june.pdf>

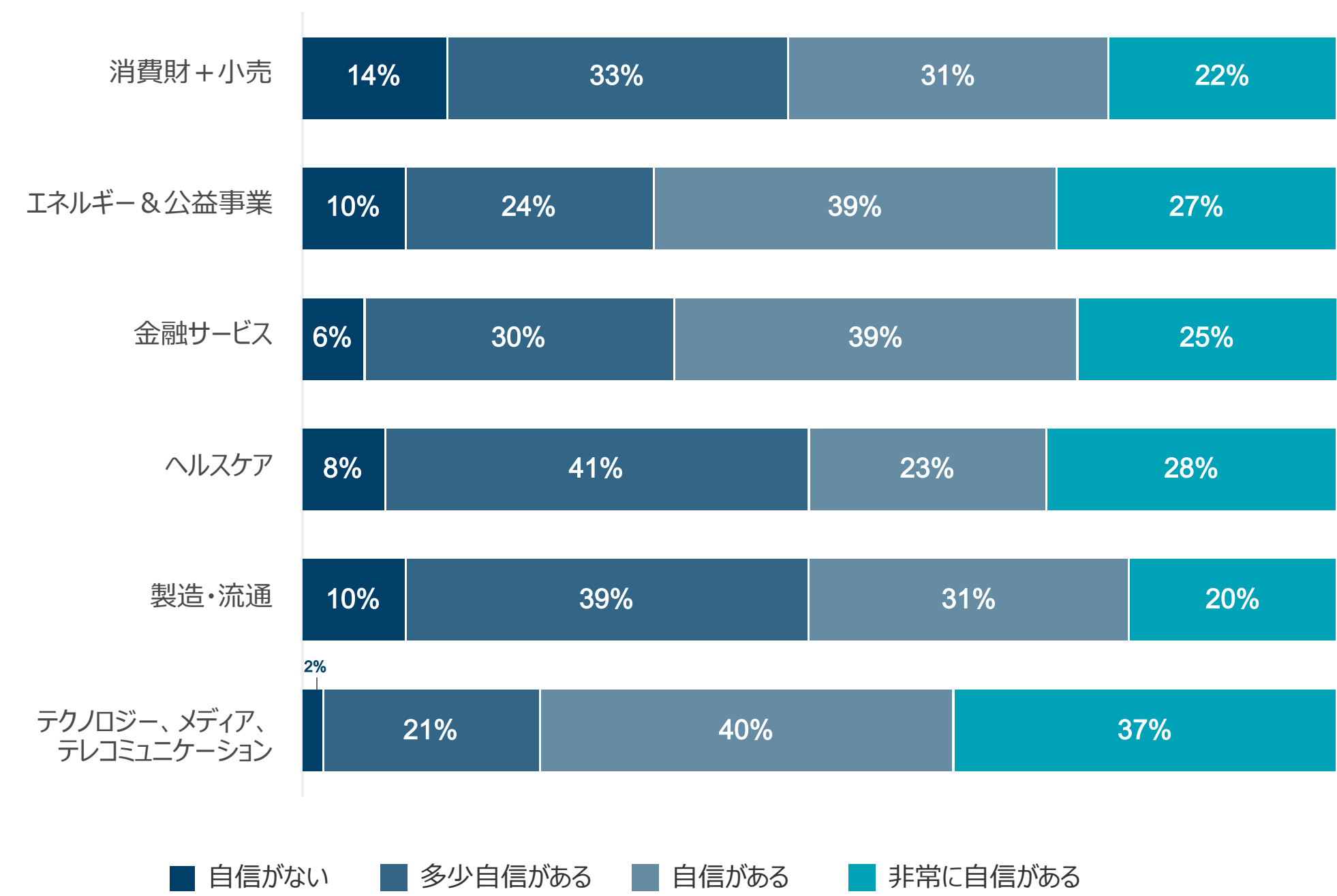
⁴ Hong Kong Monetary Authority, July 16, 2025: www.hkma.gov.hk/eng/news-and-media/speeches/2025/07/20250716-1.

⁵ Federal Data Strategy: Leveraging Data as a Strategic Asset, U.S. Office of Management and Budget: [strategy.data.gov](https://www.eo.gov/strategy/data).



データの信頼性に関する業界の見解を比較する

図 5: 業種別データ信頼度



テクノロジー業界の77%の組織がAIデータの管理に自信があると回答しており、これには十分な理由があります。強力なイノベーション文化、早期のAI導入、合理化されたデジタルインフラ、規制のハードルの低さが、競争優位性をもたらしているからです。



業界別の視点では、テクノロジー企業や金融サービス機関は、製造・流通、小売・消費財（CPG）に比べて、自社のAI施策を支えるデータに対して高い信頼を報告しています。

テクノロジー

テクノロジー業界の組織は、AIデータを管理する能力に最も高い信頼を示しています。それには理由があります。強いイノベーション文化、早期からのAI導入、整備されたデジタルインフラへの容易なアクセス、規制障壁の少なさが、この分野に他よりも明確な競争優位を与えているのです。テクノロジー企業は、成熟したデータガバナンスフレームワーク、熟練したデータ専門家へのアクセス、レガシーシステムの少なさといった恩恵を受けています。つまり、単にツールを持っているだけでなく、成果を実現するための人材も備えているのです。

金融サービス

金融サービス業界は、AIのためのデータ管理に関して、幅広い信頼度を示しています。多くの組織が「非常に自信がある」または「自信がある」と回答している一方で、「多少自信がある」または「自信がない」の категорияに入る組織も目立っています。

このばらつきは、信頼が基盤となる分野において特に重要です。わずかなデータ問題でも深刻な結果 — 風評被害、規制罰則、顧客信頼の喪失 — を招き得るため、強固なデータ管理は中核的な経営課題となっています。

この不均衡な信頼度に寄与する要因のひとつは、業界が買収を通じて成長してきた長い歴史にあります。合併や買収（M&A）の活動は規模拡大やイノベーションを促す一方で、断片化したシステム、不一致のデータ標準、レガシーインフラを導入し、それらがデータ品質や信頼を損なう可能性があります。さらに、伝統的な銀行や金融機関は、フィンテック企業に比べてAI導入において大きな課題を抱えることが多くなっています。このギャップは、規制監督の厳しさ、レガシーシステムへの依存、保守的な顧客基盤、リスク回避的な企業文化といった要因によって生じています。これらの制約は、高度なAIアプリケーションにデータを活用する自信をしばしば制限しています。

製造と流通

製造・流通部門の回答者は、自社のデータ能力に対して中程度の信頼を示しています。回答の多くは「多少自信がある」というカテゴリーに収まり、高い信頼を示す割合は少数です。これらの産業は、断片化したデータシステム、業務サイロ、デジタル変革の遅れに悩まされることが少なくありません。スマート工場や予測分析に投資するメーカーもありますが、多くはまだAI導入の初期段階にあり、それが全体的な自信に影響しています。⁶

小売・消費財

信頼度はまちまちです。かなりの数の組織が「自信がある」と回答していますが、かなりの割合が「多少自信がある」のカテゴリーにも入っています。これは、複数のチャネルにまたがる大量の顧客データやサプライチェーンデータを管理することの難しさを反映しているのかもしれません。大手小売企業はパーソナライゼーションや需要予測のためにAIを活用していますが、レガシーシステムや一貫性のないデータ品質が足かせになっている企業もあると思われます。

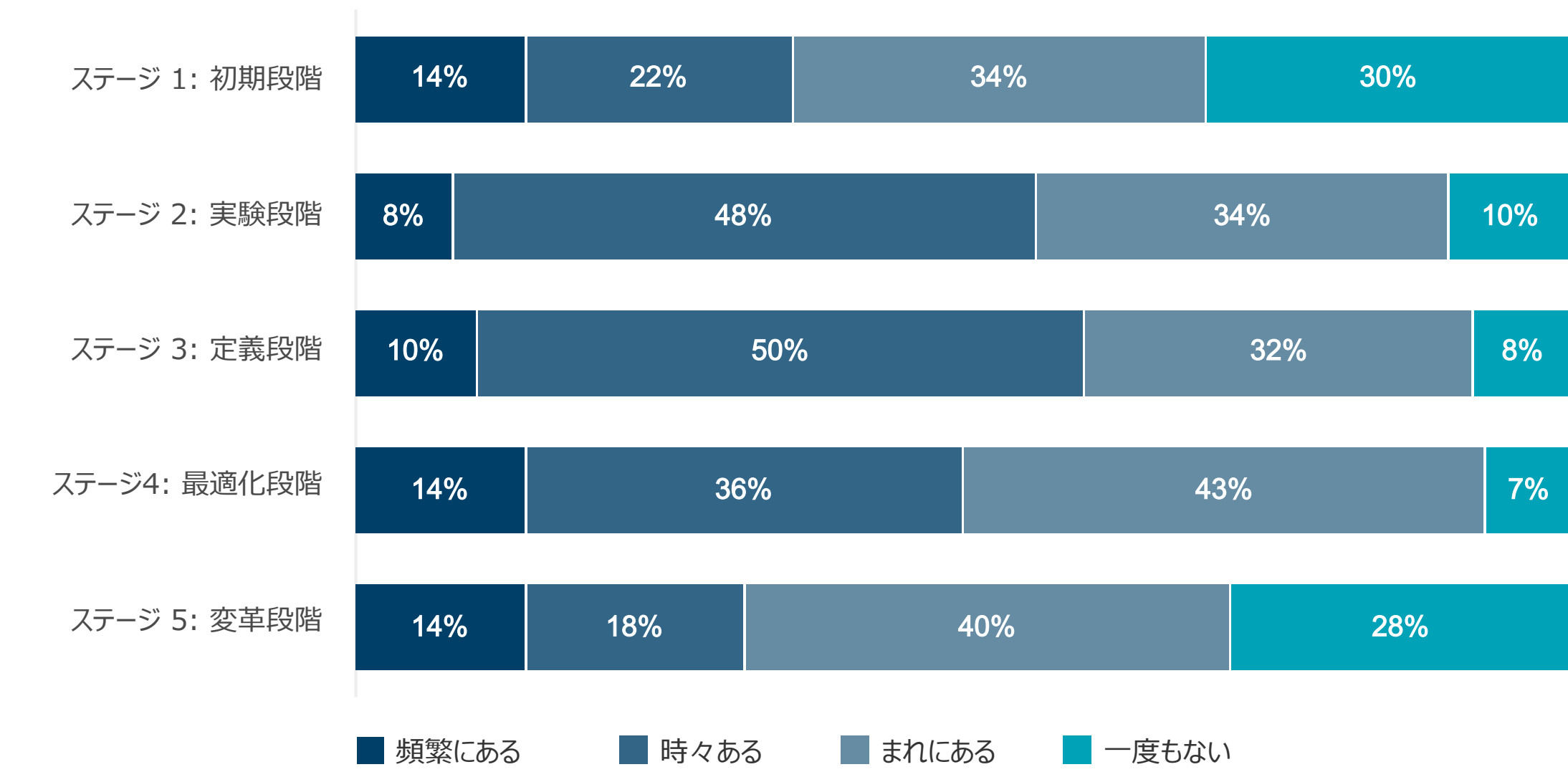
⁶ “The ‘Productivity Paradox’ of AI Adoption in Manufacturing Firms,” by Kristin Burnham, MIT Sloan School of Management, July 9, 2025:: mitsloan.mit.edu/ideas-made-to-matter/productivity-paradox-ai-adoption-manufacturing-firms.



データの偏りと予期せぬ結果

AIシステムの出力で予期しない結果（不正確な情報、バイアス、誤解など）があった経験はありますか。

図 6: AIの成熟度別にみたデータの偏りの認識

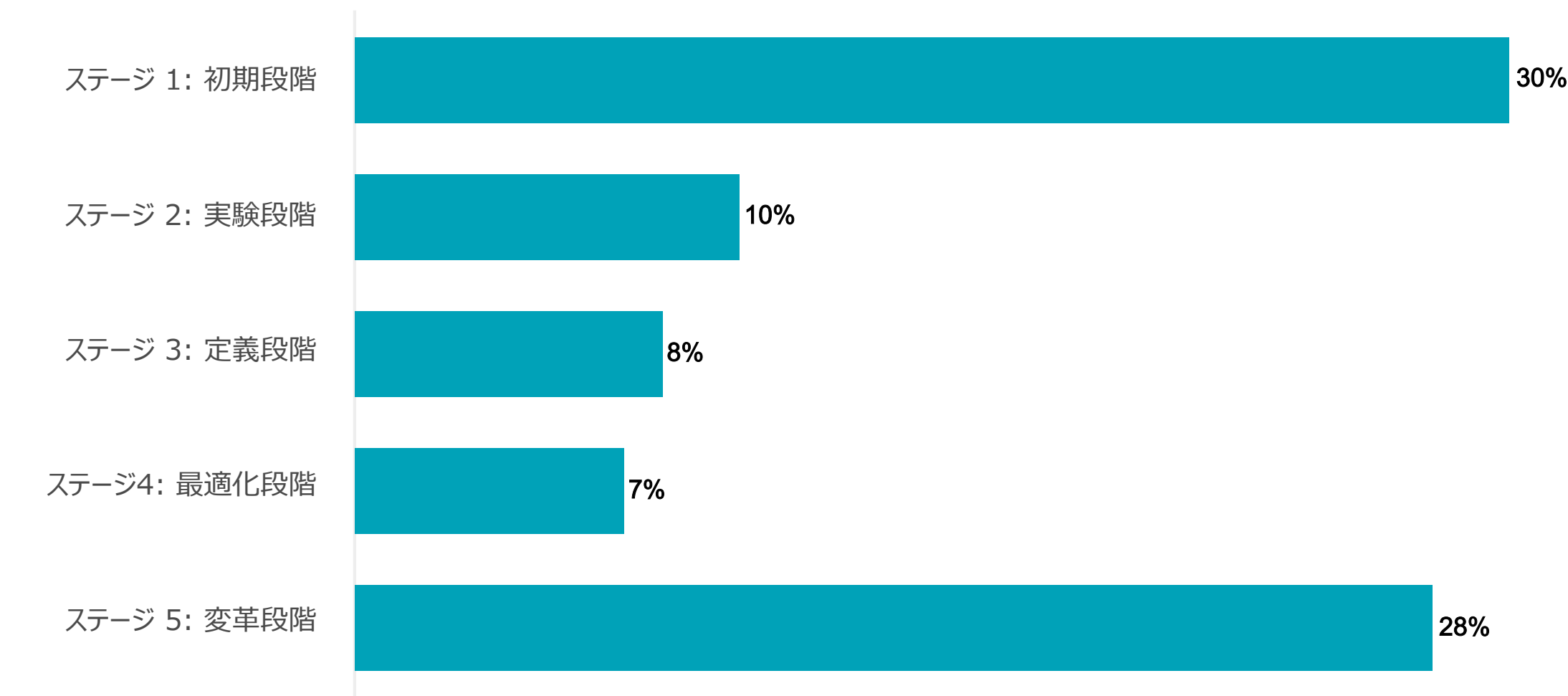


バイアスは存在する可能性が高いですが、その認識と軽減は組織のデータリテラシーと成熟度に大きく依存しています。組織がAI成熟度を高めるにつれて、バイアスをより効果的に特定・理解・削減するためのツール、フレームワーク、文化的認識を発展させます。これには、モデルに投入するデータの品質とガバナンスの改善だけでなく、出力の管理強化 一つまりAI生成のインサイトを監視・検証し、責任を持って解釈すること も含まれます。

特に、ステージ5の組織の3分の1未満（32%）がAI出力において少なくとも時々、不正確またはバイアスのかかった結果を見ると回答しており、これは他のどのAI成熟度段階よりも低い割合です。



図7: 「バイアスを見たことがない」と回答したAI成熟度別の割合



成熟度別に見る

ステージ1とステージ5の組織はいずれも、他の段階に比べてバイアス問題が少ないと報告しています。これはAI成熟度曲線の両端に位置する彼らの特性による可能性があります。

- **ステージ1**： データにバイアスが「存在しない」と報告する30%は、実際にバイアスのない環境で活動しているわけではなく、検出するためのツールや専門知識が不足しているのかもしれません。あるいは、ユースケースが比較的単純で、バイアスを生じさせる要素に関係しないため、表面化しにくいのかもしれません。注目すべきは、ステージ2になると「バイアスを見たことがない」と答える割合が10%に減少する点です。
- **ステージ5**： 同様に、変革段階の28%は「データバイアスに遭遇したことがない」と答えています。これは、AI成熟組織がバイアスを問題化する前に検出・対処するための強固な統制を持っていることを反映している可能性が高いです。



データ課題：最適化への障害

表 1: チームまたは組織が、データの信頼性、完全性、およびアクセス可能性を確保する上で直面している主な課題は何ですか。

	ステージ 1: 初期段階	ステージ 2: 実験段階	ステージ 3: 定義段階	ステージ4: 最適化段階	ステージ 5: 変革段階
リソース不足およびトレーニングの欠如	51%	48%	39%	33%	33%
技術的な問題および制限	43%	49%	50%	51%	47%
各種規制、法的およびコンプライアンス要件によるアクセス制限（ITセキュリティを含む）	41%	54%	56%	53%	59%
データの種類の把握、文脈または意味の解釈	37%	40%	43%	45%	36%
適切なデータガバナンスの欠如	27%	31%	31%	26%	31%
データのサイロ化、アクセス不能および複雑さ	24%	27%	32%	33%	29%
その他	5%	2%	2%	2%	2%

成熟度ステージにおける第1位

成熟度ステージにおける第2位

成熟度ステージにおける第3位

技術関連の問題や制限は、すべてのAI成熟度ステージにおいて主要なデータ課題であり、ステージ4の組織の51%がこれを大きな障壁として挙げています。

AI成熟度段階ごとの、主要なデータ関連の課題は以下の通りです。

- **ステージ1**：リソース不足およびトレーニングの欠如が、初期段階の組織における最大のデータ課題です。これは、データやAI能力テラシーの基盤的な欠如や必要なインフラ不足を反映している可能性があります。
- **ステージ2～5**：組織がデータ成熟の旅を進めるにつれ、コンプライアンスやセキュリティ制約が主要課題として浮上します。この変化は、自社データの構成、機微性、潜在的リスクを実際に理解するようになることを反映しています。こうした段階の組織は、実際の顧客データを扱う高度なユースケースに取り組んでいる可能性があり、単純な「RAGモデルを利用したポリシーチャットボット」などのアプリケーションを超えています。一方、初期段階の組織は、自社のデータ状況に可視性がないために、これらのリスクをまだ認識していない可能性があります。同時に、資源と訓練のギャップに関連する課題は、ステージ1の51%から、ステージ4と5には33%に低下します。
- **全ステージ共通**：セキュリティの懸念は全ての成熟度段階で持続的に存在し、堅牢で拡張性のあるデータガバナンスおよびセキュリティフレームワークの必要性を強調しています。また、技術関連の問題と制約も全段階における主要なデータ課題であり、ステージ4の組織の51%が大きな障害として挙げています。こうした不足は、高度なAIユースケースを支えるインフラへの負担増を示しており、「野心と技術的準備の間の重大なギャップ」を浮き彫りにしています。このギャップを埋めるには、より強力なシステムだけでなく、AIソリューションを構築・拡張・維持するための技術スキルを持つ人材も必要です。



表2: データの信頼性と完全性を確保するために、チームまたは組織は現在どのような手段を採用していますか。*

	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
チームは定期的にデータ管理のベストプラクティスについてトレーニングを受けている	37%	54%	51%	60%	69%
データ入力/出力は定期的に監査および監視され、異常を検出している	36%	49%	47%	46%	74%
ユーザーがデータの問題を報告する仕組みがある	34%	38%	42%	43%	41%
堅牢なデータ管理ポリシーおよび基準が確立されている	24%	35%	44%	48%	57%
信頼できるソースから購入、および／または外部データのリスク管理が行われているシンジケートデータ（複数の企業や組織に提供される市場データ）を使用している	19%	16%	28%	32%	38%
データ収集および入力時のデータ整合性を確保するために自動検証チェックが実装されている	18%	33%	44%	56%	69%
AIモデルがどのようにデータを処理しているかを理解するために、透明性を高めるツールを使用している	14%	32%	43%	45%	67%

成熟度ステージにおける第1位

成熟度ステージにおける第2位

成熟度ステージにおける第3位

*注: 「その他」の回答は表示していません。

組織はデータの信頼性と完全性を確保するために、幅広い施策を導入しており、特に研修、監査、データ透明性ソリューションといった施策が重視されています。

- **データ管理のトレーニング**：ステージ1からステージ5にかけて導入率が大幅に増加し、組織におけるデータリテラシーとベストプラクティスに対する投資の拡大を反映しています。
- **監査とモニタリング**：定期的なデータ監査は成熟した組織の特徴であり、ステージ5の回答者の74%が一貫した監査慣行を報告しています。
- **データ透明性ソリューションの使用**：データの透明性を高めるツールの使用は、AIの成熟度とともに着実に増加していますが、ステージ1の組織では導入が著しく遅れています。

重要な差別化要素は、ステージ5の組織において定期的なデータ監査が特徴となっている点です。ステージ5の組織の74%が入力／出力を定期的に監査・モニタリングして異常を検知しており、この割合は他のステージの組織では半分以下となっています。

「完璧なデータの罠」を避ける：AI成功のための5つの注意事項

AIの取り組みを始めるにあたり、「完璧なデータ」を待つことは大きな障害になり得ます。真実はこうです：“進歩は不完全さから始まります。”
ここでは、データが完全でなくてもチームが自信を持って前進できるようにする5つの注意事項を紹介します。

1. 進歩は完璧に勝る： 完璧なデータを追い求めて勢いを失ってはいけません。今あるものから始めましょう — 実際、AIは時間の経過とともにデータ品質を改善する助けとなり得ます。多くの組織は、メダリオンアーキテクチャ（ブロンズ、シルバー、ゴールド）を採用することで、データ品質を段階的に改善しつつ、各段階で価値を提供することに成功しています。
2. 不完全なデータにも価値がある： 整っていない、あるいは不完全なデータでも、パターンを明らかにし、意思決定を支え、初期のAIユースケースを推進することができます。
3. AIはデータを改善できる： AIは不整合を検出し、欠落を特定・補完し、データ品質を向上させることができます。つまりAIは目標であると同時に、解決策の一部にもなり得るのです。
4. 学びは実践の中で起こる： 初期の試行は内部知識を構築し、隠れたデータ問題を明らかにし、チームの成熟度を加速します。
5. ガバナンスは利用を通じて成長する： 実際のユースケースが実践的なデータ方針やガバナンスフレームワークを形作るものであり、その逆ではありません。

結論： 完璧なデータを待つことでAIの旅を遅らせてはいけません。不完全さを出発点として受け入れること — 真のブレークスルーは、チームが行動を起こし、その場で学び、AIをデータと共に進化させるときに生まれます。
進歩とは待つことなく、賢明かつ大胆に前進することです。



“

完璧なデータを待ってはいけません。完璧さが終わるところから進歩は始まるのです。

*Peter Mottram*はプロティビティのエンタープライズデータおよびアナリティクス部門のグローバルリーダーであり、AI部門のリーダーでもあります。*Peter*はコグニティブディジションサイエンスとデータの分野で認められたリーダーであり、さまざまな業界のクライアントを支援しています。

データの信頼性は能力：行動への呼びかけ

組織がよりデータ主導型になることを目指す中で、データへの信頼を築くことは単なる目標ではなく、意図的に育成すべき「能力」です。各成熟度段階に応じた具体的な行動は以下の通りです。

初期段階の組織：基礎を固める

- **断絶に対処する**：多くの組織が研修を提供していると報告していますが、チームは依然としてリソース不足や準備不足を感じています。これは、研修の「提供」と「効果」の間にギャップがあることを示しています。
- **標準的な研修に留まらない**：研修は一般的な第一歩ですが、広範なガバナンス構造なしでは反応的かつ不十分なものとどまりがちです。
- **明確なガイドラインと統制を確立する**：初期段階の組織は、信頼を基盤から築くために、明確に定義されたデータ方針、役割、アクセス統制を必要とします。
- **データリテラシーを優先する**：基盤的なデータリテラシープログラムは、AIのような先端技術を拡張する前に不可欠です。
- **データ成熟度の基準を設定する**：DAMAやDMMMのようなシンプルなフレームワークを用いて、データガバナンス、品質、インフラ全般における現在の能力を評価し、改善の優先順位をつけることができます。

成熟期の組織：リアクティブからプロアクティブへのシフト

- **自動化と検証を行う**：AI成熟度が高まるにつれて、組織は手作業による問題報告から、自動化されたデータ品質チェックや予防的な統制へと進化していきます。
- **データ透明性ソリューションに投資する**：データライネージ、利用の可視性、品質指標を提供するツールは、チームが使用するデータを理解し信頼する助けとなります。
- **データガバナンスプログラムを強化する**：成熟した組織は、日常業務の中にデータガバナンスを組み込み、全社的に一貫したデータ管理を確保します。

信頼構築におけるAIの役割

- **AIをデータリテラシーの促進要因として使う**：AIは非技術ユーザーにとってもデータをよりアクセスしやすく、解釈しやすく、実行可能にする助けとなります。
- **信頼できるデータから始める**：高品質なデータ、強力なガバナンス、データリテラシーを備えた人材は、効果的かつ倫理的なAI導入の前提条件です。

調査概要

プロティビティは今年、AIの利用状況や準備状況、成長の機会を見出している場所、関連する課題への対処方法について、幅広いリーダーや専門家の見解を収集するためにAIパルス調査プログラムを開始しました。

今回の調査は2025年5月から6月にかけて行われ、870名を超える参加者がアンケートに回答しました。そのうち140名以上の、CxO、取締役、副社長、取締役、ディレクターレベル、マネージャーレベルのプロフェッショナルが含まれています。

- 今回の調査の主な特徴として以下の点が挙げられます。
- テクノロジー業（13%）、金融サービス（9%）、製造業（9%）を筆頭に、さまざまな業種から回答が寄せられました。
- 地理的には、回答者は北米とその他の地域で均等に分かれています。国別では、米国が42%と最も多く、次いで英国、インド（それぞれ11%）、カナダ（7%）、オーストラリア（7%）となっています。
- 組織の機能別では、IT部門（29%）、オペレーション部門（21%）、財務・経理部門（10%）、人事（8%）と、幅広い回答者がいます。





プロティビティについて

プロティビティは、企業のリーダーが自信をもって未来に立ち向かうために、高い専門性と客観性のある洞察力や、お客様ごとに的確なアプローチを提供し、ゆるぎない最善の連携を約束するグローバルコンサルティングファームです。25ヶ国、90を超える拠点で、プロティビティとそのメンバーファームはクライアントに、ガバナンス、リスク、内部監査、経理財務、テクノロジー、デジタル、オペレーション、人材・組織、データ分析におけるコンサルティングサービスを提供しています。

プロティビティは、米国フォーチュン誌の働きがいのある会社ベスト100に10年連続で選出され、Fortune 100の80%以上、Fortune 500の約80%の企業にサービスを提供しています。また、成長著しい中小企業や、上場を目指している企業、政府機関等も支援しています。プロティビティはRobert Half（RHI）の100%子会社です。

AI能力：AIは技術革新の最前線に立ち、企業の事業運営や競争方法に革命をもたらしつつあります。AIは将来の成長と価値の軌道を定義するために重要です。この機会は広範であり、戦略的かつ責任あるAIの利活用にはバランスが不可欠です。

私たちは、最先端のAIソリューションを提供し、既存のAIテクノロジーを活用したり、企業向けのカスタムソリューションを構築する手伝いをします。また、プロティビティ独自のAIプラットフォームもあり、これを活用してお客様により迅速に価値を提供し、貴社のアクセラレーターやイネーブラーとして利用することができます。当社独自のアプローチは、既存のデータとテクノロジー環境を活用し、お客様が投資から最大限の利益を得られるよう支援します。

Face the Future with Confidence®

